



# 高校野球と私



## —その2—

前回、私はこの欄で、「高校野球と私」のタイトルで投稿したのですが（令和元（2019）年7月号4面）今回は、その続編です。

高校を卒業して運よく医学部に合格した私は、そのご褒美に阪神甲子園球場にて第58回春の選抜高校野球を観戦させてもらえる事になりました。その観戦初日、朝から降

り続ける雨のぬかるんだグラウンドでその試合は始まりました。対戦カードは富山代表の新湊高校と愛知の強豪、享栄高校との試合でした。当時享栄高校には、その秋のドラフト会議で中日ドラゴンズが1位で指名する事になる近藤真一投手がいま

ンドで観戦する私の眼からでも、はつきり分かる急激な曲がり方をしていました。私はスタンドで観戦しながら、「私より1つ年下にこんなすごい選手がいるのか」と大変驚きました。それもそのはず、後に近藤投手は翌年の巨人戦で高卒1年目で、プロ初登板でノーヒットノーランをやつての

かるんだグラウンドで、新湊高校の野手は、2回に挙げた1点をまさに全員で死守するのです。後日談で、新湊高校の選手は実は雪の多い富山で、ぬかるんだグラウンドで、長靴をはいて練習していたとのエピソードを聞き、なるほどと感心したのを覚えています。

この試合の9回に入る時に起こった新湊高校を応援する銀傘に響き渡った三三七拍子、9回2アウト2塁で、バッターボックスに入った近藤選手が、敬遠されそうになった4球目、悔しさのあまり、4球目をわざと空振りした事、などとても印象に残る試合でした。

その後、新湊高校は次々と強豪校を撃破し、ベスト4まで勝ち進みました。その活躍は「ミラクル新湊」と呼ばれ、今でも「新湊旋風」として語り継がれています。

私は、別のテレビ番組で、元ソフトバンクホークスのヘッドコーチで野球解説者の達川光男さんが、番組内で「努力は必ずしも報われるわけではないが、成功した人は、必ず努力している」という発言を聞いて、はっとさせられたのを覚えています。雪のぬかるんだグラウンドで、長靴をはいて受けたノックが、あの甲子園の大舞台で生きたのです。私なら「いやいや、雪でぬかるんだグラウンドで、長靴をはいてノックを受けて、何の意味があるの」と思ったに違いありません。

私は50歳を過ぎて人生の折り返し地点を過ぎてしまいました。時にこの試合の事を思い出して、もしかしたら、何の役にも立たない努力かもしれないけれど、これからも少しずついろいろな面で、努力してみようかなと思う、今日この頃です。それでは第3弾をお楽しみに！

（みやぎ町 今村 洋一）